

優しく強い子に！



<http://www.minamih.net/>  
22・3・16(水)  
南NEWS no 117

## 練習・試合前の石拾い



南5年生招待の試合前、子どもたち、コーチのみなさん、お家のみなさんでグラウンドの石拾いをしました。子どもたちも慣れたもので一輪車やスコップを持ちだして石拾い・グラウンド整備に取り組んでいました。学校の校庭での体育の時、石拾いをしていました。大切な安全教育です。南の練習や試合前も石拾いや異物の除去をさせてください。



vs エルマーズ 2年生 TM

みずの 水野 水野 水野  
こひょうの 講評

みんな、どの試合もよく走ること：スプリントができていました。

めあての“取られたら取り返す”ということもよくできました。(とてもよい“だんごサッカー”だな)と思いました！

ダブルタッチやランウイズザボールなど、いろんな技にチャレンジして、よく突破できていたと思います！試合を観ていて、どの子も本当にサッカーを楽しくやれていて良かったです！

点を取れた子、取れなかった子いると思いますが、みんなで取った1点！試合に勝ったこと、みんなが自信を持って良いと思います！

これからもみんなでGAMBAって、試合に勝っていきましょう！

## もっとドリブル・ターンの技を！！

練習の終わりの時、1年生に

「春季カップ戦が4月3日から始まります。5月8日(日)の決勝は富士森競技場で行われると思います。またそこで決勝戦ができるようにドリブル・ターンの技を練習して、左右の足のキック力もつけてください。お家でも毎日練習してくださいね。」

と話しました。

どの学年も同じです。努力した分だけ上手くなります。ドリブル・ターンが上手くなれば余裕ができて、パスも上手になります。

## 片野氏とバルディの対話

### 3つの優位性

バルディ ……全てのベースにあるのは、「ゲームを支配すること」。具体的にはボールを保持し、その周囲の地域に優位性を創り出すことです。

片野 ……ここで「優位性」と言う時、具体的には何を指しているのでしょうか？

バルディ ……そこには大きく3つの側面があります。まずは「数的優位」。これは特定の地域(通常はボールの周囲)に敵よりも多くの人数を配することを意味しています。

2つめは、「ポジショナルな(位置的)優位」これは。相手ゴールを巡る敵との位置関係において戦力的に有効な場所、敵の守備を困難に陥れられる場所に人を配していることを意味します。例えば、敵守備ラインの背後や逆サイドのオープンスペースにフリーでパスを受けられる味方がいるというようなケースですね。

3つめは「質的優位」。これは1対1などの数的均衡にあっても選手のクオリティにおいて相手を上回っており、突破の確立が高いというケースです。私がグアルディオラと直接話した時の言葉を借りれば、「高い突破力を備えた質の高い選手を広いスペースにあえて孤立させることで、そこから1対1で敵を抜き去ってゴールに迫る状況を創り出す」ということになります。

片野 ……だとすれば、監督としての彼の仕事は、敵の戦術を研究・分析し、どうすれば敵のシステムのバランスを崩しゴールに迫ることができるか、つまり3つの優位性を活かして試合に勝つことができるか、その道筋を設計することにあると言えます。

(レナート・バルディ with 片野道朗『モダンサッカー教科書』)

p 36より



南で実践しているサッカーで言えば

一つ目の優位性は攻・守のボール周辺のロンバース(菱形)による数的優位。守備のディレイとスパースバックの挟み込みによるボールダッシュです。

二つ目の優位性は北斗七星の柄杓の一番先にあたる選手が、ボールサイドとは逆のサイドのライン際に位置することも位置的優位の一つです。

三つ目の優位性は、南5年生招待のユウセイ君の2得点。相手ヴァイタルエリア右をドリブル突破してペナに侵入し、ゴールをゲットした力は質的優位の勝利です。

南のどの子どもがドリブル・ターンの突破からゴールをゲットする力をつけてほしいです。Cクラス・Bクラスは練習時間の4分の3はドリブル・ターンの技の習熟に費やしてほしいくらいです。あとは左右のキック力・シュート力です。しっかりと立ち足をボール脇に踏み込んで強く正確に蹴る力です。

